

Life Design Focus

あなたは介護についてどの程度知っていますか？ －生活者アンケートにみる認知度と関心度－

第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部 研究開発室 水野 映子

当研究所が2010年1月に18～69歳の人を対象に実施したアンケート調査によると、介護保険制度の内容を知っていると答えた割合は29.8%（「詳しい内容を知っている」3.6%＋「ある程度内容を知っている」26.2%）であり、2001年1月調査の27.6%からほとんど変化していなかった（水野映子「12年目を迎えた介護保険」『Life Design Report』2011年4月）。2000年4月の介護保険制度開始からおよそ12年が過ぎ、ますます高齢化が進んで介護が身近な問題となった現在においても、介護に関する知識は十分に浸透していないと考えられる。

そこで、当研究所が2011年12月に30～60代の1,200人（有効回収数1,092人）を対象に実施した「自分の介護の準備に関する調査」では、介護保険の詳細など介護に関することについてどの程度の知識と関心があるのかを質問した。その結果を紹介する。

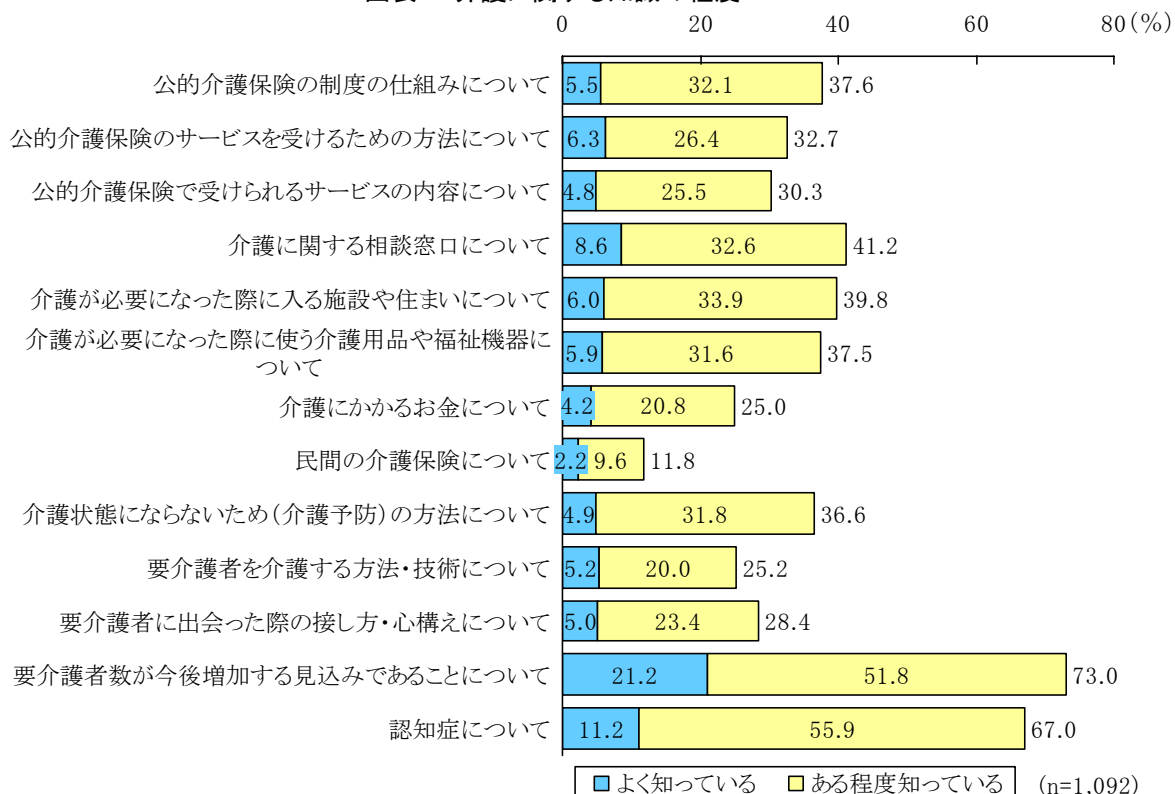
<何歳の人がどのような場合に介護保険サービスを受けられるかを知らない人は多い>

まず図表1に、介護に関する13項目についてどの程度知っているかをたずねた結果を示す。知っている（「よく知っている」＋「ある程度知っている」）と答えた割合は、「公的介護保険のサービスを受けるための方法」（32.7%）、「公的介護保険で受けられるサービスの内容」（30.3%）といった介護保険のサービスについては3割強、「要介護者（介護や支援が必要な人）を介護する方法・技術」（25.2%）、「要介護者に出会った際の接し方・心構え」（28.4%）といった要介護者への対応方法については3割弱に過ぎなかった。「介護にかかるお金」（25.0%）、「民間の介護保険」（11.8%）といったお金に関することについて知っている割合はさらに低い。

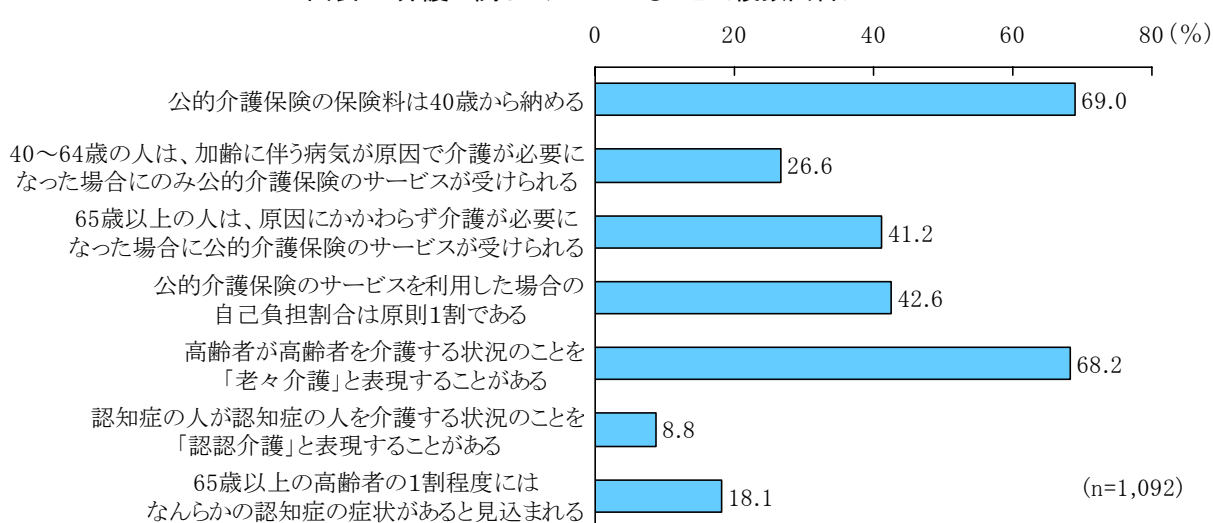
次に、図表2で介護に関する7項目について知っているのと答えた割合をみると、「公的介護保険のサービスを利用した場合の自己負担割合は原則1割である」（42.6%）、「65歳以上の人は原因にかかわらず介護が必要になった場合に公的介護保険のサービスが受けられる」（41.2%）は約4割、「40～64歳の人には加齢に伴う病気が原因で介護が必要になった場合にのみ公的介護保険のサービスが受けられる」（26.6%）は4分の1程度しかない。つまり、介護保険のサービスを受ける際にどの程度負担するのか、

また何歳の人がどのような場合にサービスを受けられるかを知らない人は多い。介護関係の用語については、「高齢者が高齢者を介護する状況のことを『老々介護』と表現することがある」(68.2%)は比較的知られている一方、「認知症の人が認知症の人を介護する状況のことを『認認介護』と表現することがある」(8.8%)はほとんど知られておらず、定着していないことがわかる。

図表1 介護に関する知識の程度



図表2 介護に関して知っていること<複数回答>



注:「どれも知らない」は7.3%、無回答は1.5%

＜介護保険料を40歳から納めることを知らない人は、50代以上でも約3割＞

前述の図表1、2の結果をそれぞれ性別および性・年代別にみてみよう。

まず、図表3で図表1の結果を性別にみると、ほとんどの項目において女性のほうが高い。特に、「要介護者を介護する方法・技術」と「要介護者に出会った際の接し方・心構え」について知っている割合の男女差は10ポイントを超える。

また、性・年代別では男女ともすべての項目において60代の割合が最も高い。年齢の高い人のほうが、家族などの介護がより身近であるために知識もあると考えられる。

図表3 介護に関する知識の程度(性別、性・年代別)

(単位:%)

	n (回答者数)	公的介護保険の制度について	公的介護保険のサービスを受けるための方法について	公的介護保険のサービスを受けるための内容について	介護に関する相談窓口について	施設や住まいについて	介護用品や福祉機器について	介護にかかるお金について	民間の介護保険について	介護予防)の方法について	介護状態にならないうための方法・技術について	要介護者に出会った際の接し方・心構えについて	要介護者数が今後増加する見込みであることについて	認知症について
男性	537	39.1	30.5	27.6	38.7	38.2	34.1	24.4	12.3	31.8	19.4	22.7	70.8	65.4
女性	555	36.2	34.8	33.0	43.6	41.4	40.7	25.6	11.4	41.3	30.8	33.9	75.1	68.6
男性30代	128	21.9	16.4	18.0	23.4	28.9	19.5	14.1	7.8	23.4	15.6	16.4	65.6	53.9
男性40代	134	32.8	26.9	25.4	34.3	36.6	29.9	23.1	11.2	21.6	13.4	17.9	64.2	60.4
男性50代	138	43.5	33.3	29.7	38.4	37.0	37.0	28.3	13.0	32.6	23.9	24.6	73.9	71.0
男性60代	137	56.9	44.5	36.5	57.7	49.6	48.9	31.4	16.8	48.9	24.1	31.4	78.8	75.2
女性30代	134	17.2	14.2	14.2	20.9	29.1	26.9	11.9	8.2	21.6	21.6	24.6	58.2	56.0
女性40代	140	26.4	27.9	27.1	38.6	33.6	35.7	23.6	10.7	35.0	31.4	29.3	75.0	62.9
女性50代	145	44.1	40.7	42.1	49.0	49.0	44.8	29.7	9.7	42.8	29.0	33.8	80.0	72.4
女性60代	136	56.6	55.9	47.8	65.4	53.7	55.1	36.8	16.9	65.4	41.2	47.8	86.8	83.1

注1: 「よく知っている」または「ある程度知っている」と答えた割合

注2: 男女で割合が高いほうの数値を緑色で示した。また男性30~60代、女性30~60代の中でそれぞれ割合が高い数値を順に青色、緑色、黄色で示した。

次に、図表4で図表2の結果を性別にみると、「高齢者が高齢者を介護する状況のことを『老々介護』と表現することがある」を知っている割合は男性より女性のほうが20ポイント近く高いが、その他の項目ではほとんど差がない。

性・年代別にみると、多くの項目においては男女とも年代の高い人のほうが知っている傾向にあるが、「公的介護保険の保険料は40歳から納める」ことについては男女とも40代の人最も知っている。自分が介護保険料を納め始めたことによってそのことに気づく人が多いのであろう。ただし、介護保険料を納めている年齢であるにもかかわらず40歳から納めることを知らない人は50代・60代で約3割、40代ですら約2割いる。

図表4 介護に関して知っていること(性別、性・年代別)＜複数回答＞

(単位:%)

	n (回答者数)	は公 4的 0介 歳護 か保 ら険 納の め保 る険 料	れ険 の合 サに ーの ビみ ス公 が的 受介 け護 ら保 るの サ場 ー合 ビに ス公	加 40 歳以 上 の 人 は、 原因	4 5歳 以上 の 人 は、 原因	6 5歳 以上 の 人 は、 原因	で己 あ負 る担 る割 合は 原場 則合 1の 割自 ビ	公 的 介 護 保 険 の サ ー ビ ス	る一 こと が あ る と 表 現 す	一 す 老 々 が 介 護 と 表 現 す	高 齢 者 が 高 齢 者 を 介 護	現 と を 介 護 と 表 現 す	人 を 介 護 と 表 現 す	認 知 症 の 状 況 を 介 護 と 表 現 す	と の 見 込 ま れ る 症 状 が あ ら る か	1 6 割 5 歳 以 上 の 高 齢 者 の か
男性	537	69.6	26.6	40.4	43.0	58.3	9.3	18.6								
女性	555	68.5	26.5	42.0	42.2	77.8	8.3	17.7								
男性30代	128	58.6	15.6	25.0	27.3	52.3	9.4	9.4								
男性40代	134	81.3	31.3	35.1	44.8	50.0	6.7	12.7								
男性50代	138	68.8	29.0	41.3	44.9	62.3	10.1	22.5								
男性60代	137	69.3	29.9	59.1	54.0	67.9	10.9	29.2								
女性30代	134	52.2	16.4	25.4	33.6	61.9	8.2	7.5								
女性40代	140	76.4	23.6	35.0	32.1	72.9	5.0	15.0								
女性50代	145	72.4	30.3	45.5	47.6	84.1	11.0	17.2								
女性60代	136	72.1	35.3	61.8	55.1	91.9	8.8	30.9								

注：図表3の注2と同じ

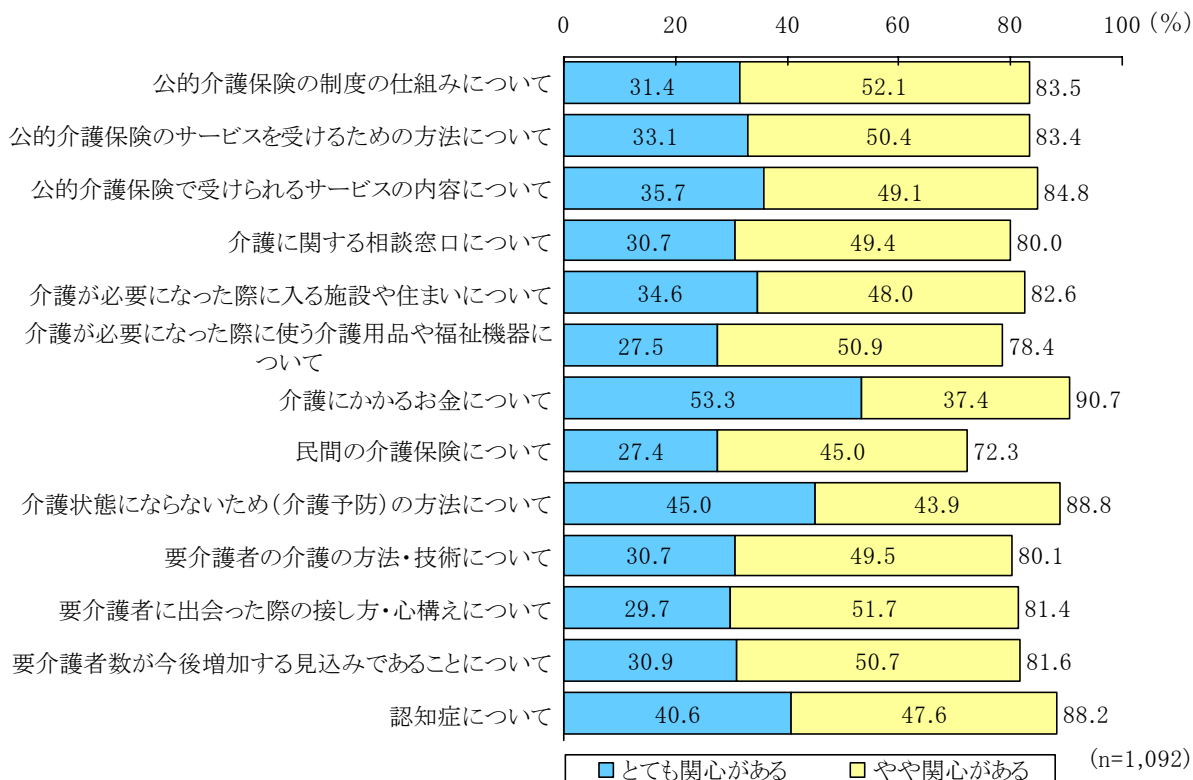
＜「介護にかかるお金」「介護予防の方法」についての知識は乏しいが関心は高い＞

では介護に対する関心はどの程度あるのだろうか。図表5の通り、関心がある（「とても関心がある」＋「やや関心がある」）と答えた割合が最も高いのは「介護にかかるお金」（90.7%）である。図表1で示したように「介護にかかるお金」について知っているか答えた割合は25.0%と低い。介護の費用についての知識は少ないが関心は高いといえる。同様に「介護状態にならないため（介護予防）の方法」についても知っている人は36.6%とさほど多くなかったが、関心がある人は9割近い。これら以外の項目に関心がある割合も7～8割台であり、介護に対する関心は全体的に高いことがわかる。

図表6で性別にみると、どの項目に対する関心も女性のほうが高い。さらに性・年代別にみると、30代より40代以上の関心が高い項目が多い。特に「公的介護保険の制度の仕組み」など公的介護保険に関する項目に関心がある割合は60代で高い。公的介護保険を利用する可能性が高い年齢だからであろう。一方、「介護にかかるお金」や「要介護者を介護する方法・技術」のように、関心を持つ割合が年齢によってそれほど変わらない項目もある。

以上でみたように、介護について人々が持っている知識は必ずしも多くないが、関心は総じて高い。介護に関する教育や情報の提供を進める必要があるだろう。それについては2012年4月の『Life Design Report』「Watching」（当研究所ホームページ http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/report/w_index.html）で詳しく述べる予定である。

図表5 介護に対する関心の程度



図表6 介護に対する関心の程度(性別、性・年代別)

(単位:%)

	n (回答者数)	公的介護保険の制度の仕組みについて	公的介護保険のサービスを受けるための方法について	公的介護保険の内容について	介護に関する相談窓口について	施設や住まいについて	介護用品や福祉機器について	介護にかかるお金について	民間の介護保険について	介護状態にならないため(介護予防)の方法について	要介護者の介護の方法・技術について	要介護者に会った際の接し方・心構えについて	要介護者数が今後増加する見込みであることについて	認知症について
男性	537	80.8	80.6	80.6	75.0	78.4	71.7	86.8	68.3	86.2	75.6	75.8	78.6	86.4
女性	555	86.1	86.1	88.8	84.9	86.7	84.9	94.4	76.2	91.4	84.5	86.8	84.5	89.9
男性30代	128	69.5	70.3	74.2	64.8	73.4	64.1	85.9	66.4	82.8	71.9	68.8	67.2	77.3
男性40代	134	82.1	81.3	82.8	73.1	77.6	70.1	88.8	73.9	87.3	77.6	78.4	77.6	91.8
男性50代	138	82.6	80.4	79.7	77.5	81.2	75.4	85.5	71.7	84.8	75.4	75.4	86.2	89.1
男性60代	137	88.3	89.8	85.4	83.9	81.0	76.6	86.9	61.3	89.8	77.4	80.3	82.5	86.9
女性30代	134	75.4	76.9	82.1	74.6	76.9	74.6	92.5	76.1	87.3	82.1	85.1	77.6	85.8
女性40代	140	82.9	83.6	86.4	80.7	85.7	85.7	95.0	77.9	88.6	85.0	87.1	81.4	89.3
女性50代	145	89.7	88.3	91.0	89.0	89.7	87.6	93.8	80.0	93.1	85.5	86.9	85.5	91.0
女性60代	136	96.3	95.6	95.6	94.9	94.1	91.2	96.3	70.6	96.3	85.3	88.2	93.4	93.4

注1: 「とても関心がある」または「やや関心がある」と答えた割合

注2: 図表3の注2と同じ

(みずの えいこ 主任研究員)